

すわみつえ通信

No.342 2024年12月16日

日本共産党鴻巣市議会議員
諏訪 三津枝



連絡先 鴻巣市赤見台3-2-7
TEL: 596-9440 FAX: 507-4151
携帯: 080-5039-2785
E-mail: mi-suwa@ezweb.ne.jp
mitsue-suwa@jcom.zaq.ne.jp

WEBで

すわみつえ



身近な議員として もっと届けたい声がある 声をかたちに

予算要望書を並木市長へ提出

12月13日(金)、日本共産党市議団は「2025年度予算要望書」を並木市長に手渡し、市民のくらし福祉充実に要望しました。とりわけ、多くの自治体で学校給食費無償化が進む中、鴻巣市では2025年度から、小学校は4,500円を5,100円に、中学校は5,200円を5,800円に、1か月600円の値上げを決めました。

物価高騰で食費を削らなければならない家庭も多い中、学校給食は子どもたちの心と身体を育てる大切な事業です。値上げはとんで

ありません。給食費無償化、国保税値上げしないこと、公共交通の充足を求めて88項目の予算要望書を提出しました。主な項目をご報告いたします。

【市に対して】 ●特定健診に聴力検査・眼科健診項目を入れること ●インフルエンザの予防接種補助の拡充 ●小中学校の統廃合は行わないこと ●学校給食費の無償化 ●不登校児童生徒の学校内外での居場所拡充 ●コミュニティバス「フラワー号」の土曜日運行を平日並み運行に戻すこと

【県に対して】 ●水道料金の値上げはしないこと 【国に対して】 戦争被爆国として核兵器禁止条約を批准すること ●消費税は直ちに5%に引き下げること ●健康保険証は残すこと



行田市の「義務教育学校を考えよう」学習会に参加して



講師:山本由美氏
和光大学教授

12月14日(土)午後2時、行田市教育文化センター「みらい」で講師に山本由美氏(和光大学教授)を招いて開催された学習会に参加しました。

行田市では20校の小中学校を10年後には3校にする計画が示されて、驚いた市民の方々が「行田市義務教育学校設置への再編計画を考える会」を立ち上げ、「本当に教育環境がよくなるのか」と学習をし、声を挙げています。

山本由美先生の講演で、あらたに視野に入れなくてはならないと感じたのは、本年10月1日に策定された「鴻巣市立地適正化計画」です。立地適正化計画(コンパクトシティ)は、集客施設や住宅を中心に誘導集約し、郊外集落には公共交通ネットワークで結ぶという政策です。市の中心部に公共施設を集約する動きを強めれば、周辺部地域はますます不便を感じる結果になります。学校を核として発展をしてきた文教の歴史を手放すことになりかねない学校統廃合を今一度、皆さんと考えたいと思います。

毎週朝 駅頭においてホットなニュース「すわみつえ通信」をお届けします。

(月)吹上駅南口 (火)北鴻巣駅東口 (水)北鴻巣駅西口 (木)吹上駅北口 (金)鴻巣駅西口

【俳句コーナー】
韓国の戒厳令と民主主義
瑠璃子

用水路建設 遺志継ぐ 医師中村哲さん殺害から5年

アフガニスタンで長年にわたって医療支援や用水路建設に力を尽くした医師中村哲さん＝当時(73)＝が現地で殺害されてから、12月4日で5年を迎えました。中村さんは隣国パキスタンでハンセン病診療に携わった際、アフガン難民の治療をしたことなどをきっかけに、1989年から本格的にアフガン支援を開始。「復興の要は自給自足の農村の回復」と訴え、2003年に用水路の掘削に着手しました。



医師 中村哲さん

中村さんが設立したNGO「ベシャワール会」(福岡市)の現地団体「PMS」は、中村さんの死去後も新たに同国の河川3カ所にせきを完成させました。30年以上、共に活動が続けてきたPMS支援室長の藤田千代子さん(65)は「先生の希望は全て引き継いでいく」と力を込めます。

「年々悪化している。気候変動による影響は間違いない」。藤田さんが心配するのは頻発する干ばつです。中村さんも用水路の掘削当初から、地球温暖化への危機感を口にしていたといい、藤田さんは「先生が指摘していた状況が現実になりつつある」と懸念を示します。 【しんぶん赤旗 12月5日付】

琉球新報 コラム<金口木舌> 韓国の事態に学ばなら

立法・司法・行政の一部や全てを軍に移管させる「戒厳」。市民生活は大きく制限され、自由は二の次に。韓国で12月3日、尹錫悦(ユン・ソンニョル)大統領が「非常戒厳」を宣布した▼戦後の日本国憲法には戒厳令に関する規定はない。ただ、同様の効果が見込まれるのが、自民党が憲法改定で掲げる緊急事態条項の導入だ。韓国の事態を受け、改めて賛否両論の意見が飛び交っている。▼緊急事態条項は、戦争や大規模災害といった非常事態に対処するため政府の権限を強化する規定だ。尹大統領による権力の乱用は、野党多数で早期収束したにすぎない。隣国で起きた騒動に学ぶのなら、整備すべきは権力を制限する規定ではないか。 【琉球新報 12月14日付】

きょうの潮流

今年の漢字は「(裏?)金」



2024年「今年の漢字」に選ばれた「金」を揮毫(きごう)する清水寺の森清範貫主＝12日午後、京都市

光と影が、選ばれた理由にありました。パリ五輪・パラリンピックや大リーグ・大谷翔平選手の大活躍が光。政治とカネ・裏金問題や止まらない物価高騰、金目当ての闇バイトが影です▼1年の世相を表す今年の漢字は「金」でした。光の金(きん)と影の金(かね)。示された二つの意味が国民の関心を引き、たくさんの票を集めたとしています▼〈裏金を表に出した調査力〉結城哲。本紙「読者の文芸」川柳選に掲載されたように、「しんぶん赤旗」のスクープで端を発し、とどめを刺した自民党の裏金。15年ぶりとなった自公過半数割れ

は国民の怒り、変化を求める声の表れでした▼しかし今の自民党には、まったく反省がありません。政治資金規正法の再改定案で示したのは、領収書は公開せず、支出額の上限も定めないというもの。闇金の温床となってきた政策活動費についても、廃止をいいながらまた抜け穴を。「公開工夫支出」と怪しげな名称を付けて▼金で政治を大きくゆがめてきた企業・団体献金の禁止についても、かたくなに拒否。不正な金の流れを変えようとしません。巨額をため込む大企業に物もいえず、どうして大幅な賃上げが実現できるのか。共産党の田村智子委員長が予算委で迫りました▼金といえば税金の使い道も問題になっています。くらしより大軍拡。しかも政府・与党は、そのための増税もたくらんでいます。明るい金を広げるのが政治本来の役割。影から光への転換は、人びとのねがいでもあるはずです。

(しんぶん赤旗 12月13日付)